

外科医に聞く

外科医師 **ふじもり 藤森** **だいすけ 大輔**



負担の少ない手術 ふくくうきょう 一腹腔鏡手術について



「腹腔鏡手術」とは、腹腔鏡と呼ばれるカメラを使用しておなかの中（腹腔内）の様子をモニター画面に映し出し、それを見ながら行う手術です。

従来の消化器手術（開腹手術）ではおなかの皮膚を大きく（5-15cm 程度）切り開いて手術を行っていましたが、腹腔鏡手術では複数の小さい傷（0.5-1.5cm 程度）で手術を行うことが可能です。全身麻酔下で腹腔内に炭酸ガス（二酸化炭素）を注入しておなかを膨らまし、小さい傷から細いカメラや専用の手術器具を挿入して手術操作を行います。手術操作は開腹手術に比べると複雑であり、手術時間は少し長くなる傾向にありますが、細かい術野が大きな画面に映し出されるため、繊細で丁寧な手術が可能であり、術中の出血量も少なく済みます。

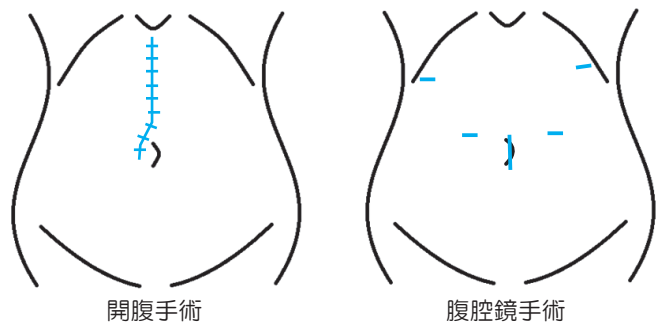
また、傷が小さいため手術の痕が目立ちにくく、疼痛も少なくなり、患者さんの精神的・身体的負担を軽減することができます。開腹しないことで臓器や全身への負担も軽減されるため、術後の治癒・回復も早いといわれており、入院期間の短縮や、早期の社会復帰・職場復帰が期待できます。

ご高齢の方においても、手術に関連した重要な問題点として術後の筋力低下や認知症の進行が挙げられますが、回復が早く入院期間が短縮されることで、これらの問題を防止することができます。

このように数々のメリットがある腹腔鏡手術は多くの病院で広く取り入れられており、当院でも胃がんや大腸がんなどの消化管悪性腫瘍のほか、虫垂炎や胆石症、鼠径部ヘルニア（脱腸）などの良性疾患に対しても積極的に導入しています。

基礎疾患や全身状態、病気の進行度等によって腹腔鏡手術の適応とならない場合もありますが、胆石症や鼠径部ヘルニアによる疼痛、その他おなかの症状で気になることがあれば気軽にご相談ください。

《手術創の比較 - 胃切除術の場合 -》



発行 : 独立行政法人労働者健康安全機構富山ろうさい病院 地域医療連携室
 富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。
 【連絡先】 0765 (22) 1280 (病院代表)
 E-mail : chiiki2@toyamah.johas.go.jp

